

「日建連表彰2021」表彰式・祝賀会を開催

日建連は昨年十二月九日、The Okura Tokyoにおいて新型コロナウイルス感染症対策を徹底して着席形式で「日建連表彰2021」の表彰式・祝賀会を行った。日建連表彰は、建築分野の「BCS賞」と土木分野の「土木賞」で構成する新たな表彰制度である。二回目となる今回は、BCS賞は一五件、土木賞は特別賞を含む一一件、合わせて二六件が顕彰された。

通副大臣が「日建連表彰の今回受賞した二六案件はそれぞれ社会的資産として今後も地域において愛され、また、活用され続けることを期待している」と斉藤鉄夫国土交通大臣の祝辞を代読した。

続いて、第六二回BCS賞、第二回土木賞の順に表彰状の授与が行われた。第六二回BCS賞選考委員を代表して後藤春彦早稲田大学大学院教授、第二回土木賞選考委員長・木村亮京都大学大学院教授による講評(次ページ)の後に、宮本会長から各受賞案件の代表者に表彰状が授与された。

表彰状授与の後、両賞受賞者を代表して、BCS賞は「老朽化が進み耐震基準に合わない旧建物を最新の技術により蘇らせてくれた関係者の皆様に感謝申し上げます」と(株)大丸松坂屋百貨店の澤田太郎社長が、土木賞は「発注者、元請、協力会社、サプライヤーなど全員の一体感が成功要因だ。この喜びと同時に技術の向上に努めて土木・建築への貢献を誓いたい」と(株)大林組の佐藤健人副社長がそれぞれ受賞の喜びを語った後、先ほど登壇して表彰された受賞案件の代表者による記念撮影を行った。

はじめに宮本洋一日建連会長から「二六件の受賞案件は、いずれも国民の生活基盤を支える社会資本整備の範を示し、わが国が誇る質の高い建築ストックの更なる発展に資するものである。日建連表彰を建設業界を代表する表彰事業として発展、定着させていくために更に研鑽を積んでいく」と挨拶した。

次いで、来賓の中山展宏国土交通大臣より祝辞をいただいた。

休憩をはさんで行われた祝賀会では、押味至一副会長の挨拶に続き、運輸賢治副会長の乾杯の発声の後、来賓を代表して田辺新一(一社)日本建築学会会長、谷口博昭(公社)土木学会会長から祝辞をいただいた。



来賓の中山国土交通副大臣より祝辞をいただく



主催者として挨拶する宮本会長

第六二回BCS賞選考委員代表 後藤春彦早稲田大学大学院教授



BCS賞における重要なキーワードは「三位一体」です。建築主、設計者、施工者のチームワークが評価の大きなウェイトを占めます。このチームワークとは何のために働くことなのかを考えてみるのが大切だと思います。

私なりに四年間BCS賞の選考を通して感じたのは、建築の社会性、あるいは公共性を実現するためのチームワークだということです。

建築の先端を切り拓いていく日本建築学会賞に対して、建築の社会貢献の裾野を広げていく役割をBCS賞は担っているように思います。その意味でも第六二回BCS賞を受賞された一五作品は、継続して建築と社会を接続する役割を担い続けていただきたいと思います。

第二回土木賞選考委員長 木村亮京都大学大学院教授



土木賞のコンセプト通り、「施工プロセス」の観点から、生産性の向上により、社会的要請である早期完成や環境保全を実現した新規プロジェクトや、新設工事より技術力が試される「更新」「改築」などの事業が目立ちます。地域社会に溶け込んだ「暮らしを守り豊かにする構造物」として長く利用されることを望んでいます。

二次選考では、事業への想いや施工での創意工夫をプレゼンテーションしていただきました。一日に二件のお話を聞くのは大変でしたが、映像を駆使したわかり易さと、応募書類では表現が難しい事業に対する情熱量が選考に影響したと思います。

また、特別賞は想定以上に倍率の高い賞になっていますが、事業や施工業者の規模によらず、継続的、積極的に応募していただきたいです。土木賞によって「土木事業の底力」を大いに表現していただければと思います。



記念の集合写真(撮影の時のみマスク非着用)